

《薬局サーベイランスコメント》

『第6週（2月6日～12日）の推定患者数は前週よりも大きく減少し、第7週は更に減少すると予想。インフルエンザの流行のピークは過ぎたがまだ流行は継続している』

2017年2月14日

済生会中津病院感染管理室

安井 良則

薬局サーベイランスによる今シーズン（2016/2017年シーズン）の2017年第6週（2月6日～12日）の全国のインフルエンザ推定受診患者数は1,076,365となり、第3週以降4週間連続して100万人を上回ったものの、前週（第5週）の推定値（1,442,043）よりも大きく減少しました（図1）。また、休日明けの月曜日（2月13日）の推定受診患者数は222,721と2週間連続して前週の月曜日の値よりも大幅な減少がみられており、第7週（2月13日～19日）の患者数は第6週よりも更に減少して100万人を下回るものと予想されます（図2）。

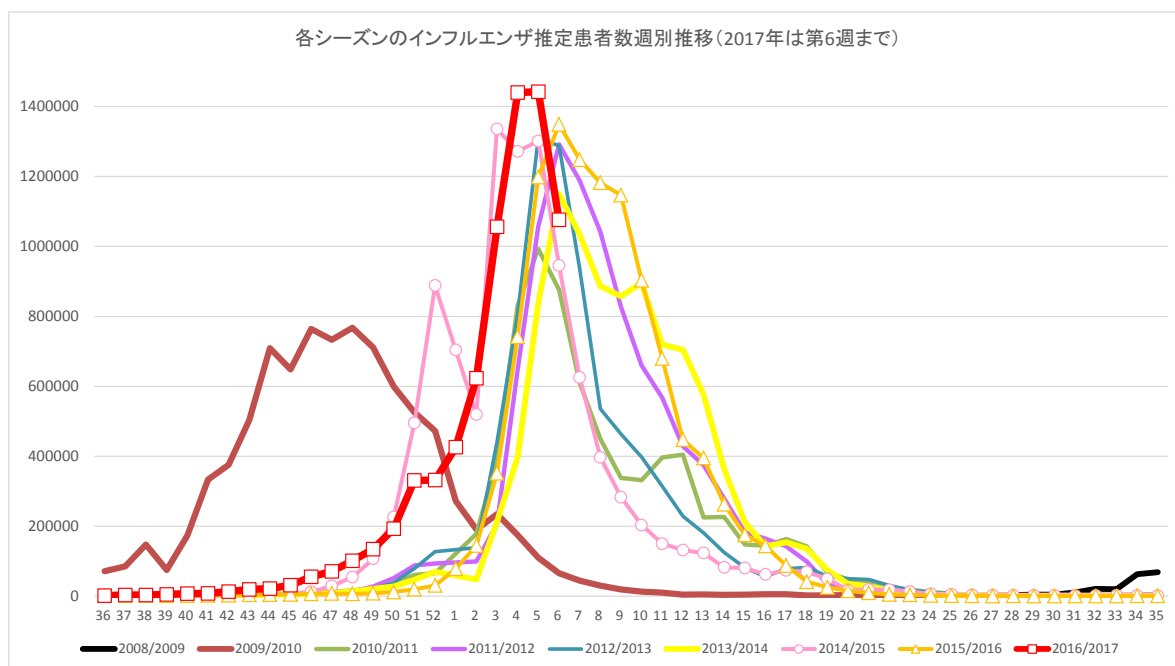


図1. 過去6シーズンと今シーズン（2016/2017シーズン）のインフルエンザ推定患者数の週別推移（第6週の推定受診患者数= 1,076,365）

2017年2月14日（2月13日分更新）

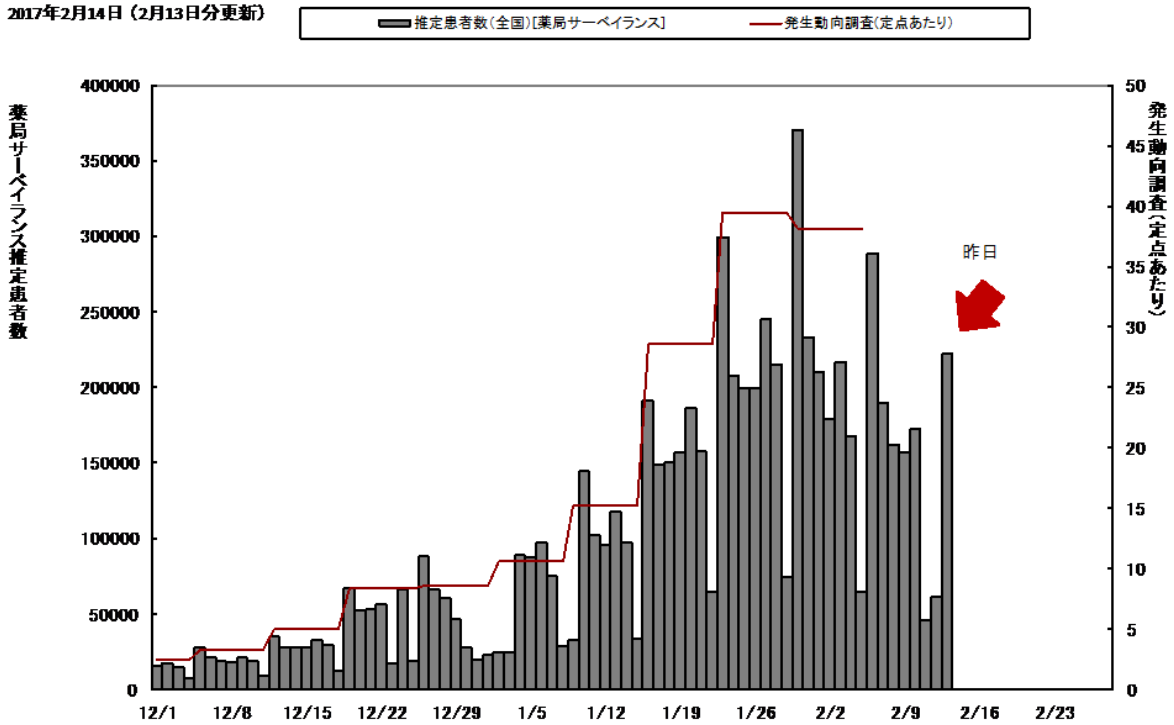


図2. インフルエンザ推定受診患者数の日別推移（2016年12月1日～2017年2月6日；2017年2月6日の推定受診患者数= 222,721）

2016年第36週から2017年第6週までの累積の推定患者数は7,392,572であり、日本の人口推計値（2016年11月1日現在、1億2695万人）で換算すると、推定の累積罹患率は約5.82%となりました。累積罹患率を年齢群別で比較すると5～9歳（19.30%、1,024,937人）、10～14歳（18.05%、992,886人）、0～4歳（12.13%、623,304人）、15～19歳（11.26%、673,401人）、20～29歳（5.56%、706,706人）、30～39歳（5.43%、826,039人）、40～49歳（4.89%、926,344人）、50～59歳（4.22%、648,791人）の順となっています（図3）。第6週の推定患者数は全ての年齢群で前週よりも減少がみられている一方で、19歳以下の年齢群の累積罹患率は10%を上回り、5～14歳では20%近い値となっています。

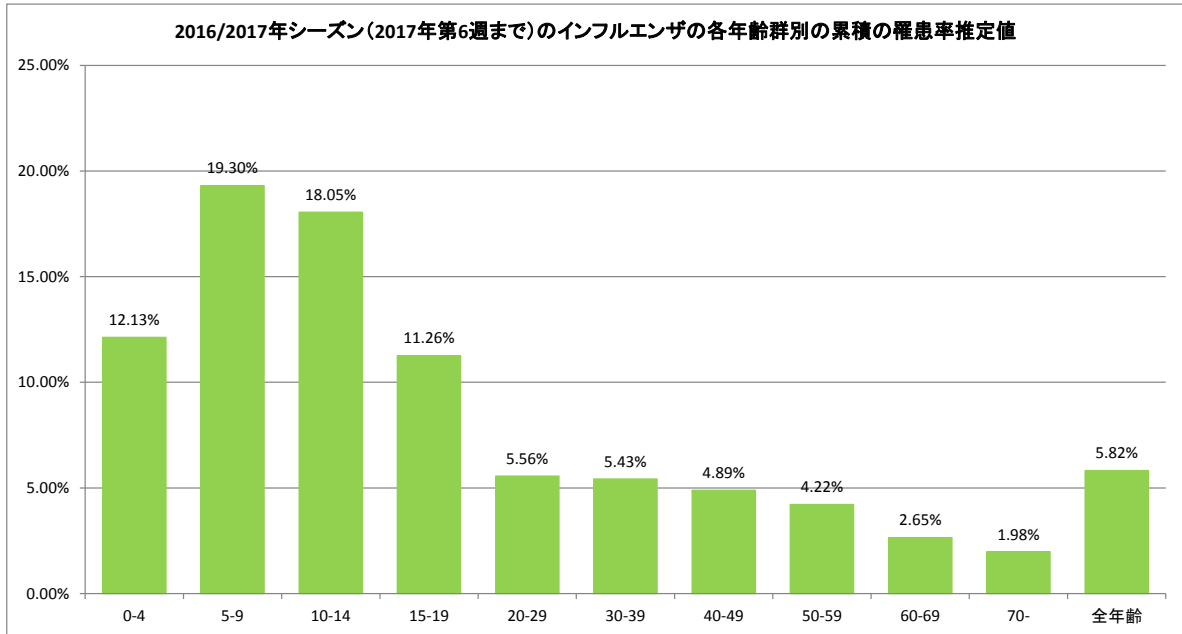


図3. 年齢群別のインフルエンザ罹患率推定値 (2016年第36~2017年第5週、累積の推定受診患者数総計= 7,392,572)

各都道府県別の2017年第6週の人口1万人当たりの1週間の推定受診者数をみると、福井県、北海道、富山県、大分県、鹿児島県、高知県、徳島県、奈良県、岐阜県、岡山県の順となっています。北海道、富山県を除く45都府県で前週(第5週)よりも減少がみられました。

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報(<https://nesid3g.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data2j.pdf>)によると、今シーズンこれまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス(2,773検体解析)は、A/H3(A香港)亜型が91.6%と大半を占めており、次いでA/H1pdm 4.6%、B型3.8%の順となっています。

2017年第6週のインフルエンザの推定受診者数は前週よりも大きく減少して約107万7000人となり、第7週も更に減少することが予想されます。流行のピークは過ぎましたが、まだ流行は継続しています。今後ともインフルエンザの患者発生の変移には注意が必要です。